

「災害支援対策委員会」

1. 構成員

1) 委員

委員長：守田美奈子（日本赤十字看護大学）

委員：大野かおり（兵庫県立大学）、竹本由香里（宮城大学）、内木美恵（日本赤十字看護大学）、西上あゆみ（藍野大学）、三橋睦子（久留米大学）、山崎加代子（敦賀市立看護大学）、山崎達枝（長岡崇徳大学）

2) 協力者

なし

2. 趣旨

看護系大学における防災及び災害支援に関わる事業として、看護系大学間の情報共有や連携のあり方、防災教育等の重要事項を協議し、本事業の円滑、適切な運営を図る。

3. 活動経過

2022年度の災害支援対策委員会は6回開催した。1) 大学間連携体制について（ブロック会議及び災害に関する被害状況確認）、2) 防災マニュアル指針2022の改訂版の作成と会員校への送付、3) 2022年度災害フォーラムの企画と運営・評価、4) 防災及び災害対策に関する会員校へのアンケート調査の枠組み検討の4項目について協議し活動を行った。

1) 大学間連携体制（ブロック会議及び災害に関する被害状況確認）について

大学の教育継続に関する大学間連携体制づくりは2020年度から開始され、2021年2月時点で197課程の参加を得て組織された。2022年度は大学間連携体制のさらなる充実を図る目的で、ブロック会議や情報収集の方法を検討した。また2022年5月、10月及び2023年3月に連携教員の推薦に関する協力依頼と大学担当者の更新依頼を行った。2023年3月末の時点では参加校は273課程となり、会員校全体の92%が連携体制の構成員である。

大学間連携体制は、全国を7つのブロック（北海道・東北、関東（東京以外）、東京、中部、関西・近畿、中国・四国、九州・沖縄）に分けている。各ブロックでは、2から4の小ブロック（ブロックの中で、さらに府・道や県が小単位で集まる）に分かれて、2-10回/年間の会議を開催し、地域特性に応じた詳細で具体的な情報共有や意見交換を行っている。これらの会議を経て、大ブロック会議として、2-3回/年の会議を開催し、各会員校の防災対策や災害発生時の対応、COVID-19に対する対応等に関する意見交換を行った。

2022年度は、これらのブロックにおける情報収集を行うためのフォーマットや報告ルートに関する手順を検討し、委員会における災害発生時の連絡と情報収集網を整備した。具体的には、震度5強以上の地震が発生した際は、発生地域の被害情報について、ブロック担当者が小ブロック担当者と連携し情報収集を行い委員会に報告する基準を作成した。また台風等の水害や雪害に関しては、災害支援対策委員長とブロック担当者が相談して、被害が大きく情報収集の必要性があると判断した場合に、情報収集と支援を行うなどの基準を作った。2022年度は、台風被害、雪害等が発生したので、それに関する情報収集を行った。局地的な被害が大きく交通遅延等で休講措置をとった大学もあったが、それ以外の大きな被害はなかったことを理事会に報告した。

2) 防災マニュアル指針 2022 の作成と会員校への送付 <https://doi.org/10.32283/rep.0381df48>

防災マニュアル指針は 2013 年度に策定し、2015 年度と 2017 年度に改訂され、さらに現状に即した検討を行ってきた。COVID-19 の影響により、2021 年度から 2022 年度の検討を経て 2022 年度に防災マニュアル指針を改訂した。各大学の危機管理担当者や大学間連携の窓口担当教員に配布できるよう各会員校に 5 部ずつ配布予定である。

3) 2022 年度災害フォーラムの企画と運営・評価

2022 年度の災害フォーラムは「災害に対する大学の備えの再考」のテーマで、2023 年 2 月 19 日に実施した。災害支援対策委員会から、大学間連携体制の活動（ブロック活動）概要、防災マニュアル指針の改訂に関する情報提供を行った。その後、災害発生時の事例報告として、①ブロックネットワークを活用する災害発生時の調査プロセス（災害支援対策委員会 三橋睦子委員）、②2022 年台風 15 号による災害対応（龍野浩寿氏、常葉大学）、③地域を巻き込んだ災害に向けた大学の取り組み（山田覚氏、高知県立大学）のテーマで報告を行った。アンケート結果を資料 3 に提示しているので参照いただきたい。

4) 防災及び災害対策に関する会員校へのアンケート調査

会員校を対象に、2017 年度に防災対策に関する意識や取り組み実態に関してアンケートによる調査を行った。2023 年度に 2 回目の大学の防災対策の取り組みや意識に関する調査を実施する予定で、調査枠組みや調査工程等を検討した。2023 年 8 月頃の調査実施を目指して、これまでの調査結果や文献をもとに調査項目を検討中である。

4. 今後の課題

- ・大学間連携ネットワークの充実に向けて、適切にブロック会議を運用し、議事内容や課題を整理し、情報の共有を図る。
- ・防災マニュアル指針 2022（改訂版）を広報する。
- ・各大学の取り組み事例等をホームページに掲載し、共有を図る。
- ・アンケート結果の分析やブロック会議から、災害発生時の教育活動継続のための大学における取り組み課題を整理する。
- ・地域連携、貢献：地域に対する防災活動、災害発生時の住民支援、避難所支援等、看護系大学としての活動の可能性等について、ブロック会議で情報共有を行い、災害支援対策委員会で検討する。

5. 資料

資料 1：JANPU 災害連携ネットワーク 広域ブロック

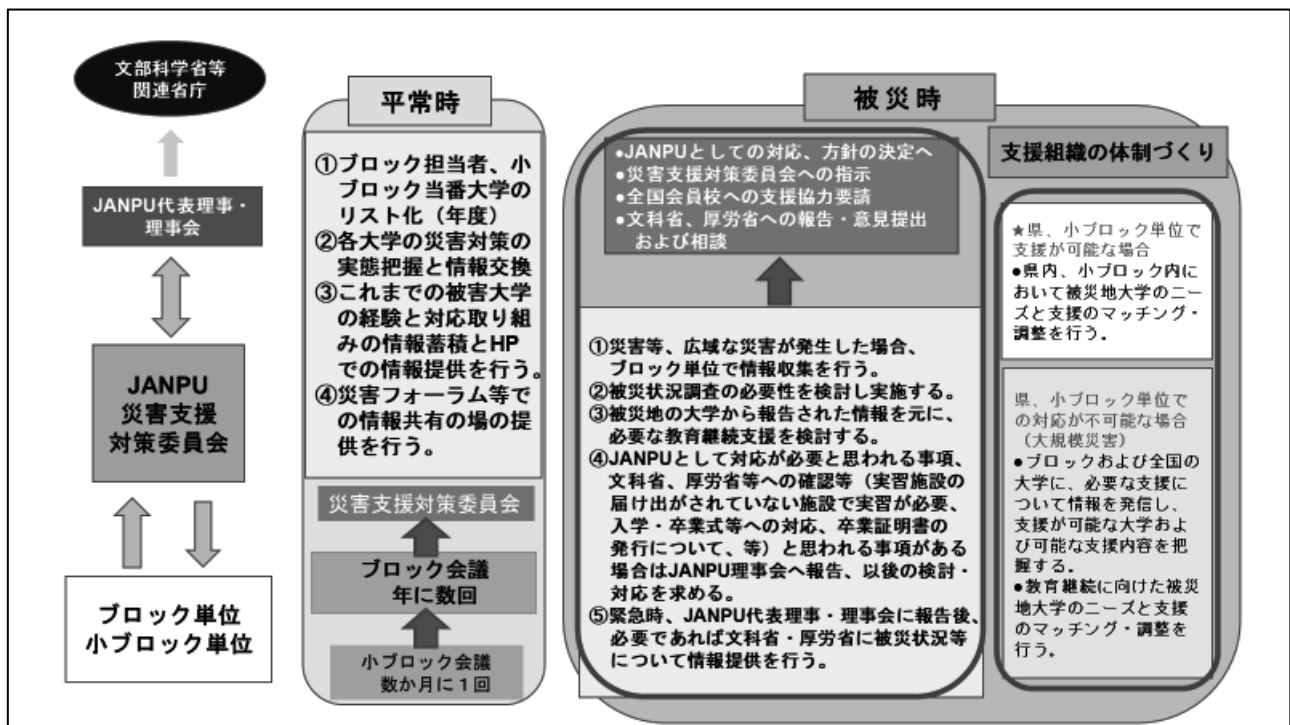
資料 2：教育継続支援に向けた防災対策及び災害発生時の情報共有と対応

資料 3：2022 年度災害フォーラム「災害に対する大学の備えの再考」の報告及びアンケート結果

資料1：JANPU 災害連携ネットワーク 広域ブロック



資料2：教育継続支援に向けた防災対策及び災害発生時の情報共有と対応



日本看護系大学協議会 (JANPU) 災害支援対策委員会企画 災害フォーラム「災害に対する大学の備えの再考」開催のご報告

1. 開催日時

2023年2月19日(日) 13時30分～15時30分

2. 開催方法

ZOOM ウェビナーによるオンライン配信

3. テーマ：「災害に対する大学の備えの再考」

4. 企画趣旨

2020年度の災害支援対策委員会の趣旨に賛同いただいている会員校の広域ブロック、小ブロックでの大学間連携が始まった。しかし、3年目となるコロナ禍は教育や実習に影響をもたらし、実際には備蓄など災害への備えは滞っていることが危惧される。一方、日本では地震による大規模災害への危機と近年頻繁に起こる風水害への対策から目をそらしているわけにもいかない。このような背景の中、2021年度より始まっていた防災マニュアル指針の改訂版について情報を提供し、災害対策に関する大学の事例を共有することで、各校の災害に対する備えを再考していただきたいと考え企画した。

5. 概要

本フォーラムでは JANPU の大学間連携で、2022年度のブロック活動の概要、2021年度より進められていた防災マニュアル指針 2022改訂版の説明ののちに、災害に関する JANPU の対応と2つの大学より実践活動を報告していただいた。

- (1) 2022年度災害支援対策委員会ブロック活動の概要 災害支援対策委員会

<https://www.janpu.or.jp/wp/wp-content/uploads/2023/02/saigairenkei-block.pdf>

- (2) 防災マニュアル指針改訂の説明 災害支援対策委員会委員 大野かおり (兵庫県立大学)

<https://www.janpu.or.jp/wp/wp-content/uploads/2023/02/DisasterManual.pdf>

- (3) 災害に関する JANPU の対応と大学事例報告

- ①ブロックネットワークを活用する災害発生時の調査プロセス

災害支援対策委員会委員 三橋睦子 (久留米大学)

<https://www.janpu.or.jp/wp/wp-content/uploads/2023/02/saigaichosa-process.pdf>

- ②2022年台風15号による災害対応 龍野浩寿氏 (常葉大学)

<https://www.janpu.or.jp/wp/wp-content/uploads/2023/02/2022Typhoon-No.15.pdf>

- ③地域を巻き込んだ災害に向けた大学の取り組み 山田覚氏 (高知県立大学)

<https://www.janpu.or.jp/wp/wp-content/uploads/2023/02/region-university-saigaitorikumi.pdf>

- (4) 質疑応答

<参加人数およびアンケート結果>

1. 参加人数

- ・事前の参加申込人数は 293 名
- ・当日の参加人数は 209 名 (委員・事務局・話題提供者の合計 13 名を除くと参加者 196 名)

2. アンケート結果

・Google フォームでフォーラム終了直後～2月22日まで収集：回答者数 155 名

1) 回答者の属性

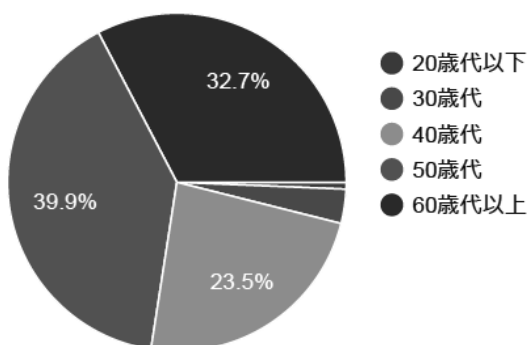


図1 年齢

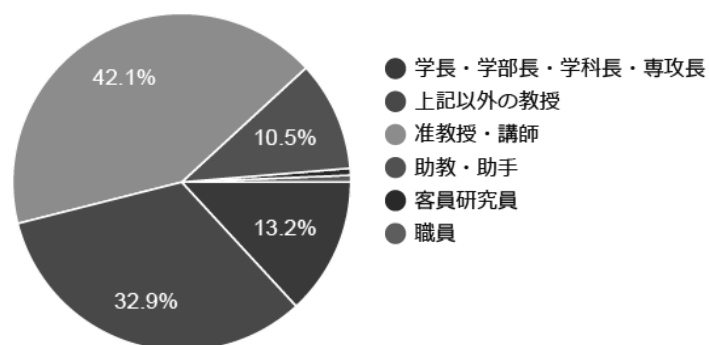


図2 職位

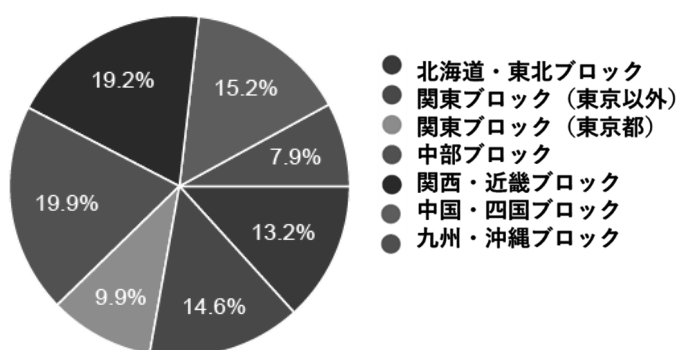


図3 勤務・在学しているブロック

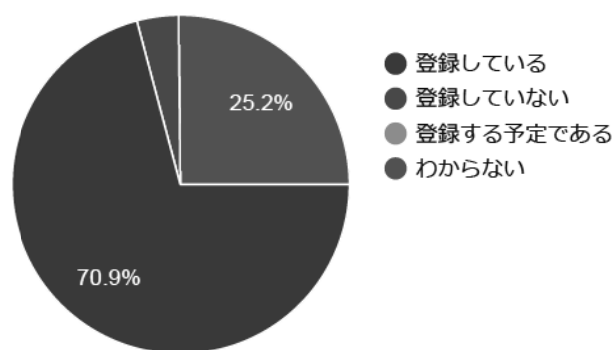


図4 JANPU 災害連携の登録

2) 2022 年度災害支援対策委員会ブロック活動の概要

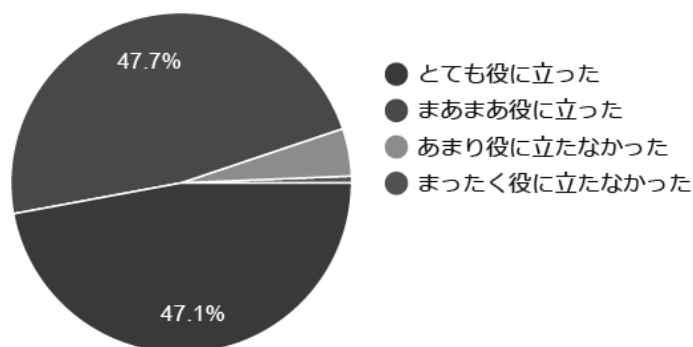


図5 2022 年度災害支援対策委員会ブロック活動の概要の評価

役に立ったと思った事柄（79 件より抜粋）

(1) 他大学の情報収集

他大学の災害の備え、災害時の対応、組織関連と具体的な動き方、
災害に遭遇した際の情報収集の流れ、教育支援体制の整備、大学と地域との連携

(2) ブロック活動の理解

今後の参考になる、ブロック活動自体を知った、他ブロックの活動、先駆的なブロック活動、

ブロック会議の内容、全国の動向、進捗状況、登録数、自ブロックの活動、システム化されてきた、位置づけ、全体像、モチベーションが上がった、ブロック間の活動の差

(3) 委員会の活動の理解

概要、事例や情報の共有会など具体的な委員会の活動内容の確認、目的の確認
ブロック毎の大学数構成

(4) 考える機会になった

大学教員としての、大学内、県内、JANPUにおける役割や課題を考える機会になった
情報共有の仕方に関して考える機会になった
地方自治や地域と大学と病院の連携が必要である
災害を見据えた事前の訓練が必要である
学生が災害対策に参加することの必要性が理解できた

3) 防災マニュアル指針改訂の説明

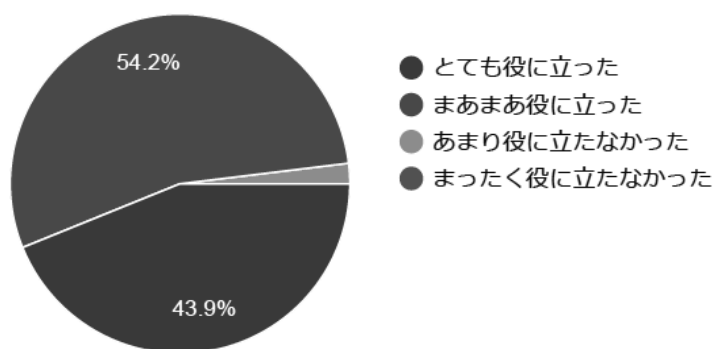


図6 防災マニュアル指針改訂の説明の評価

役に立ったと思った事柄（76件より抜粋）

(1) 大学のマニュアルへの活用

今後本学のマニュアルと見直す予定、自大学の災害への備えの参考になる
大学のBCPを見直すうえで参考になる、見直す指標となる、大学間の連携
備蓄の必須化、取り組む内容が明確になった、改訂版にそった自大学の改訂版作成を認識
教職員に共有しやすい、大学の特性に合わせて備える点、実際の活用方法のヒントを得た

(2) 改訂の経緯と内容の理解

推奨と必須項目の違い、改訂のポイント、改訂の経緯の説明、作成経緯、
事例による説明が良い、内容の確認、存在を知った、実態に沿っている
全国基準がわかった、「マニュアル」ではなく「マニュアル指針」である点
複数冊送られること、連携教員の動き、
大学の地域性や特徴を反映できる余地が大きいこと

(3) 課題

文字が小さくてよく読めなかった、事前に現物（ドラフトでもよいので）がほしかった
もう少し時間をとって丁寧に説明をしていただきたかった

4) 災害に関する JANPU の対応と大学事例報告

役に立ったと思った事柄 (88 件より抜粋)

(1) JANPU の取り組み

被災状況調査の内容

被災状況調査用紙 (迅速版)、2022 年台風 15 号による災害対応の具体的な内容

災害発生状況を把握するシステムの理解

(2) 大学の事例

- ・高知県立大学の取り組み、大学における被害状況の把握から支援への流れ
- ・地域との連携の実例
- ・高知県立大学が先進的な活動をしており、今後行っていけないかの模索の指針となった
- ・実際に発災した際、本学でどのように取り組むのか、具体的に検討することができた
- ・常葉大学の被災学生の状況と支援の具体的な報告
- ・他大学の状況を知ることができ、学内で対策を検討する際の参考になる
- ・被災での大学としての関わりや地域を巻きこむ活動の内容が刺激になった
- ・地域住民の方々との教員、事務、組織的交流が大切
- ・学内での情報共有の際の課題、地域との連携
- ・個人情報取り扱いについて、事務職と教員との温度差
- ・災害による被災には、学生の居住地によって差があり、支援のニーズが異なる
- ・大学として果たすべき役割について考える機会になった
- ・被災経験のない大学として課題を感じた
- ・個人情報の取扱いについては事前に検討の必要がある
- ・実際の対応について詳細な説明があった点
- ・山田先生の講義が、大学と地域の連携のモデルとしても参考になった
- ・学生の安否確認後のフォローの距離感を知り、もう少し具体的に伺いたかった
- ・被災状況の把握、地域を巻き込んだ災害に向けた大学の取り組み
- ・学生情報の教員への共有、地域病院との連携訓練
- ・被災の実態と発災前の地域との連携、訓練が災害時に役立つということが分かった
- ・発表を行った災害の当事者大学ということもあり、学生は被災しても学科の進行は止まらず、その状況の中での学生支援についてお伝えすることができればと思う。実際に被災地区が限局された災害だったので、ノーダメージの学生と生活もままならない学生といったように二分される結果となり、対応を一律化しにくい状況だった
- ・各地方や各大学の取り組みの概要が分かった
- ・目的の確認ができたこと、先進的な事例が聞けたこと
- ・龍野先生のご報告では、直近の水害時の動きをご説明していただいたので、参考にしたい
- ・断水時のシャワーの開放など、平常時から予測して事務方と話し合っておく必要がある
- ・高知県立大学の山田先生のご報告は、ただただ準備状況や取り組みがすごいと感じた
- ・地域住民との訓練など、学生も巻き込みつつできることからやっていきたい
- ・病院との協定は素晴らしいので、ノウハウを知りたい
- ・高知県立大学の取り組みは、本学も市の避難所でもあることから連携構築をする参考になる
- ・学生情報の共有については、学生情報のフローチャートがあり、事務に学生から連絡があった場合は学科に連絡されるようになっている。ただ、災害時を想定していないので確認をしておかなければならない
- ・被災地や災害看護学の専攻科がある大学の取り組みは導入や開発、維持ができて素晴らしい。そのような環境にない大学でもその先駆的な取り組みの一部を地域性に合わせて取り入れていかなければ

いけないのであろう。誰かひとりの意見ではできないことではないので学科・事務を巻き込むことはなかなか厳しい

- ・本学も水害が生じやすい地域ですので、参考になった
- ・災害とは、天災もあれば人災もあると思う。地域の特徴を網羅したものを大学だけではなく地域ぐるみで対処していく必要性を再認識した。学生が避難所をどのように認識しているのか、様々な条件により異なる事の具体例は、参考になった
- ・大学が小田原市にあり、静岡豪雨災害では教員が被災し1週間断水生活を余儀なくされたが大学からの支援、配慮がなく苦勞されていたことを後から知った。そのような事例もあり、今回の常葉大学の報告は身近な問題として捉えることができた
- ・日頃からの備えとアップデート、個人情報などの取り扱いの難しさ
- ・災害時こそ、客観的な視点が必要で他大学へ支援を求めてもいいと実感できたこと
- ・マニュアルには載り切らない部分がたくさんあると思うので、事例報告は広がるとよい
- ・被災学生の気持ちを丁寧に調査されており、理解しなければと感じた
- ・浸水被害は復旧するまでにかなり時間がかかることがわかった

<当日の様子>

守田委員長からの挨拶、概要の説明から始めた。その後、概ね予定時間通りにすべてのプログラムを進めることができた。最終的に15分程度の質疑応答の時間を持つことができたが、参加者からの質問や意見はなく、委員会メンバーからの質疑応答となってしまった。

<感想・反省点・今後の課題等>

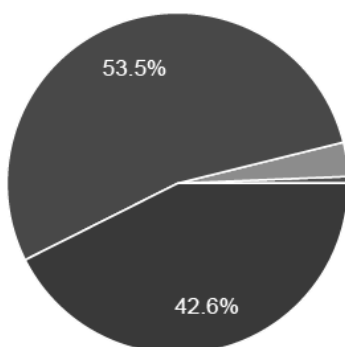


図7 2月開催への評価

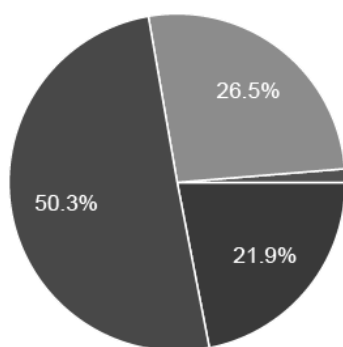


図8 休日開催への評価

- とても良かった
- まあまあ良かった
- あまり良くなかった
- まったく良くなかった

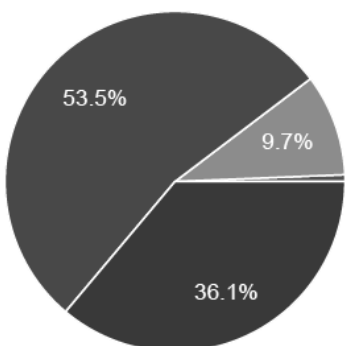


図9 午後開催への評価

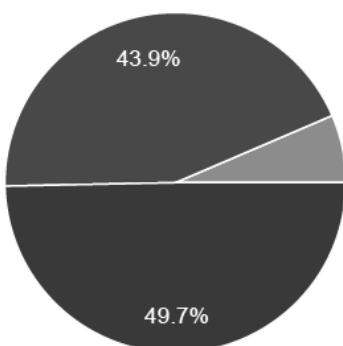


図10 開催時間(2時間)への評価

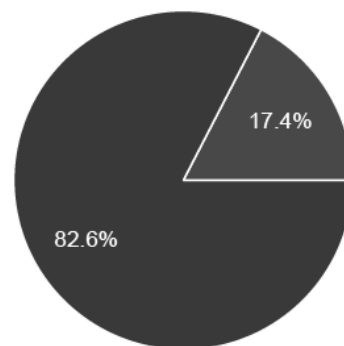


図11 ZOOM開催への評価

新型コロナウイルス感染状況下であることは昨年と同様であり、豪雪など天候不順も予測されるため、開催方法については、今年度もオンラインでの開催とした。開催方法に関する評価は図のとおりであるが、概ね昨年と同じ回答である。2月の日曜日の午後に開催としたが、今年度も多くの方に参加していただくことができた。昨年同様に話題提供者や報告する委員も感染のリスクがあることを想定し、不測の事態にも対応できるように準備を行った。参加者からの意見では、他大学の報告を知ることで自大学の備えの見直しになり、また、他ブロックの活動を聞くことで、自ブロックの振り返りとなり、テーマの「災害に対する大学の備えの再考」につながったのではないかと考える。昨年の課題にあがっていた登録大学の増加に関しては、今年度約9割にまで増えており、今後も参加校100%を目指し、連携の強化につなげたいと考える。

＜フォーラムに関する質問、意見、感想＞（44件より抜粋）

- ・録画公開希望
- ・ZOOMでの対応は、参加しやすく移動もなく助かる
- ・オーディエンスとの一体感がもう少し感じられると良い
- ・2時間の中で少し休憩が欲しい
- ・災害発生時の調査プロセスの中で風水害が起きた時のJANPUへの報告は誰が決めるのか
- ・高知県立大学の山田先生の資料を配信してほしい
- ・事前にpdf配信は助かった
- ・毎回学びがあり、内容を事務局へ報告させてもらっている
- ・大学教員として、災害への意識が低すぎることに気が付いた
- ・できれば勤務時間内の開催が望ましい。平日の夕方か土曜日の方がありがたい
- ・自身の所属している大学の学部が現時点でJANPUに所属しているのかどうかを確認したい
- ・タイムリーな研修を企画・運営であった
- ・継続開催を希望する
- ・日本看護系大学協議会の働きの一環を知り、有意義な取り組みをされていて感心した
- ・安全確認について非常時に使用できるソフトまたは方法を知りたい
- ・全てが初めてだったのでとても新鮮
- ・事例は有益だと思うので、毎年お聞きしたい

＜今後開催してほしい企画＞（27件より抜粋）

- ・総合大学に位置付けられている場合と単科大学の対策の相違
- ・看護と地域、医師会、行政との交流
- ・継続的な活動報告や災害事例報告
- ・災害看護の教育
- ・地域によって想定される被災状況が異なるため、ブロック別勉強会を開催してほしい
- ・ブロック毎の連携体制構築の現状
- ・個人情報の取り扱い
- ・国内だけでなく、海外での取り組みなど
- ・大学における必要な災害対策マニュアル作成における留意点
- ・学生の安否確認の方法
- ・各大学の学生への防災・減災教育の実際（災害看護の授業以外の）
- ・災害時の教育の継続に向けた他大学との連携について
- ・備蓄のより具体的な実施内容、防災訓練の具体例など
- ・小ブロックでの先進的な取り組みの紹介
- ・原子力発電所近隣の活動

- ・教材の活用事例、フィールドワークの実際
- ・地域特性を踏まえた災害対応
- ・看護学生にできる災害支援活動についての実例
- ・情報（各災害毎のマニュアルのアウトラインなどの）共有

ご意見に関する回答

ご意見：山田先生の資料について

回 答：本報告書の1ページ目に記載いたしました。

ご意見：災害発生時の調査プロセスの中で風水害が起きた時の JANPU への報告は誰が決めるのか

回 答：委員長・広域ブロック担当者が協議して調査の必要性を検討いたします。

調査が必要と判断した場合に、調査実施ブロックを決定して調査票 URL (Google フォーム) を小ブロック連携教員に配信いたします。

ご意見：自身の所属している大学の学部が現時点で JANPU に所属しているのかどうかを確認したい

回 答：JANPU 事務局にメールでお問い合わせください。